

# 全国がん登録 実務者研修会

質疑応答

2022.07.22 広島県がん登録室

## 質問1

乳癌症例で術前に化学療法を実施してから手術をする場合、進展度が治療前でリンパ節転移だったものが術後病理学的で限局になることがあるのですが、そのままの選択で届出をすればよいでしょうか。

# 回答

この質問のケースは、下記の内容で届出てください。

『⑩進展度・治療前』⇒「420.領域リンパ節転移」

『⑪進展度・術後病理学的』⇒「660.手術なし・術前治療後」

進 行 度	⑩ 進展度・治療前	<input type="checkbox"/> 400. 上皮内	<input type="checkbox"/> 410. 限局	<input checked="" type="checkbox"/> 420. 領域リンパ節転移	<input type="checkbox"/> 430. 隣接臓器浸潤
		<input type="checkbox"/> 440. 遠隔転移	<input type="checkbox"/> 777. 該当せず	<input type="checkbox"/> 499. 不明	
	⑪ 進展度・術後病理学的	<input type="checkbox"/> 400. 上皮内	<input type="checkbox"/> 410. 限局	<input type="checkbox"/> 420. 領域リンパ節転移	<input type="checkbox"/> 430. 隣接臓器浸潤
		<input type="checkbox"/> 440. 遠隔転移	<input checked="" type="checkbox"/> 660. 手術なし・術前治療後	<input type="checkbox"/> 777. 該当せず	<input type="checkbox"/> 499. 不明

## 解説

『⑰進展度・術後病理学的』は、

治療前に得られた情報(『⑯進展度・治療前』)に、手術や病理組織学的検索で得られた知見を補足、修正して決定される病期を表す項目

ただし、術前に腫瘍の縮小を目的とした初回治療を行った場合  
その旨を示す必要があります

「660.手術なし・術前治療後」は2つの意味を有しています。

A) 当該がんの手術が自施設で行われなかった

B) 『⑯進展度・治療前』の診断後、手術の前に初回の治療が開始された

術前に初回治療を行った場合(今回は化学療法)、Bに該当するので、  
『⑰進展度・術後病理学的』は必ず「660.手術なし・術前治療後」となります。

## 質問2

全国がん登録システム(HOS-CAN-LITE)に、該当する病理診断形態コードのマスタがない場合は、どのように登録すればよろしいでしょうか。組織が近い病理診断形態コードのマスタにするのか、「8000/3 新生物、悪性」で登録するのか、どのようにすればよろしいでしょうか？

※質問は原文のまま掲載しています。

## 回答

『⑩病理診断』には、組織型に近い病理診断名を選択していただき、備考欄に詳しい病理診断名を入力して下さい。

もし組織型に近い病理診断名がわからない場合、悪性腫瘍(8000/3)を選択して下さい。

## 例

病理診断が乳房の被包型乳頭状癌(8504/2)の場合

腫瘍の種類	⑧側性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 右 <input type="checkbox"/> 2. 左 <input type="checkbox"/> 3. 両側 <input type="checkbox"/> 7. 側性なし <input type="checkbox"/> 9. 不明	
	⑨原発部位	大分類	乳房
		詳細分類	A 乳房上内側4分の1
⑩病理診断	組織型・性状	非浸潤性導管内癌	8500/2
備考	病理診断：被包型乳頭癌 (8504/2)		

(全半角128文字)

## 質問3

泌尿器科のTUR-BTや、消化器内科のポリペクトミーなど、手術した際の病理結果で病理形態コードが決まる場合は、診断日は、手術で標本を採った日ということによろしいでしょうか。

『⑬診断根拠』では、「1.原発巣の組織診」が最も確かな検査となっております。

※質問は原文のまま掲載しています。

## 回答

TUR-BTやポリペクトミー施行時に初めてがんが分かった場合として回答します。

このような場合、診断日はTUR-BTやポリペクトミー施行日となります。

### 診断日の判断方法(診断施設が自施設の場合)

- 当該がんの初回治療前の診断のため行った検査のうち「がん」と診断する根拠となった検査を自施設で行った日
- 自施設に受診後に実施され、「がん」と診断された(陽性であった)検査のうち最も確からしい検査(最も確からしい検査が複数回行われている場合、より早い日に行われた検査)の検査日

『全国がん登録 届出マニュアル 2022』より



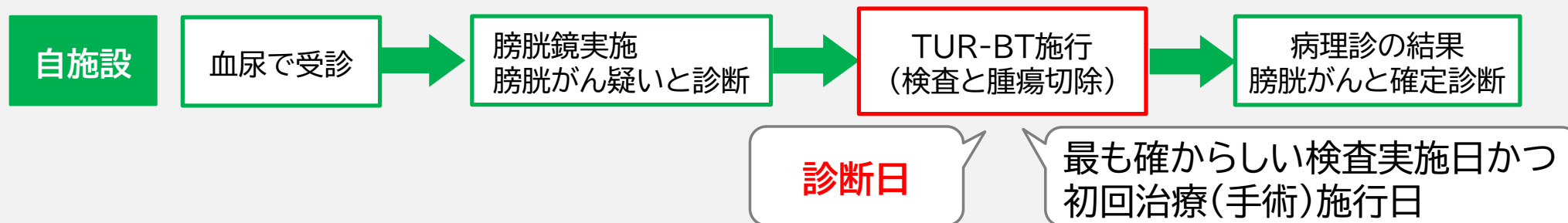
## 解説

TUR-BTやポリペクトミーは、腫瘍の検査かつ手術となりうる施術です。

この場合、「検査日＝手術日」となるので、診断日はTUR-BT施行日(ポリペクトミー施行日)となります。

## 例えば

血尿で受診。膀胱鏡を実施した結果、膀胱がん疑いと診断。検査のためにTUR-BTを施行し、腫瘍切除した結果膀胱がんと確定診断された場合、TUR-BT施行日が診断日となります。



## 補足

「届出票について」のスライド10でもお話した通り、がんと確定診断されたのが初回治療開始よりも前の場合、最も確からしい検査実施日を診断日としてください。

### 例えば

CTで肺がんと診断。さらに顕微鏡的診断で肺がんと確定診断。その後初回治療で手術を施行した場合、最も確からしい検査は顕微鏡的検査ですので、診断日は顕微鏡的検査実施日となります。

